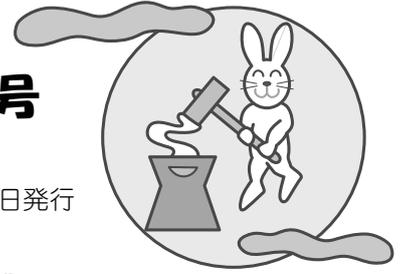


ぱっそ あ ぱっそ 14号

passo a passo (イタリア語で一步一步の意味) 未来に向かって

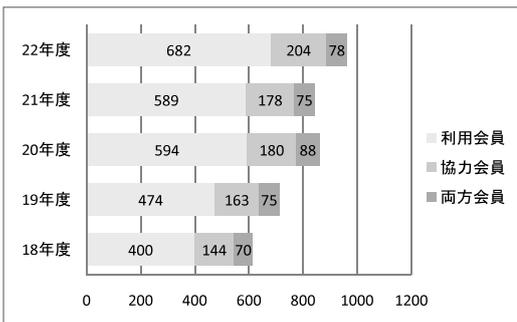
発行：水戸ファミリー・サポート・センター 平成 23 年 8 月 29 日発行
〒319-0393 水戸市内原町 1395-1 水戸市内原支所 3 階
Tel 029-303-7277 Fax 029-303-7288 <http://www.310-famisupo.or.jp>



東日本大震災は、私たちの生活に大混乱を招きました。皆さまいかがお過ごしでしたか。被災された方々に心からお見舞い申し上げます。久しぶりの会報紙の発行となります。7月で会員登録が1000人を超えました。今回はファミサポ事業の近況報告、病児・病後児と震災についてのアンケート報告、会員講習会の様子を皆さまにお届けいたします。

水戸ファミリー・サポート・センターは平成16年6月に開設。2ヶ月の準備期間を経て、31人（利用会員8人・協力会員18人・両方会員5人）の会員登録がありました。8月13日に初めての援助があり、この月は4件の活動がありました。この5年間の一步一步をご報告します。

1.会員登録の推移

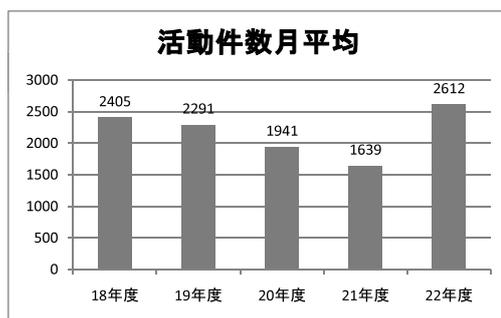


* 毎年100人前後の会員登録があります。援助を受けたい利用会員は5、6歳以下の乳幼児の家族の方が多く、出産を控えた方、双子ちゃん、3人4人の兄弟姉妹の家族など、さまざまな理由でいざという時のために、援助を求めて入会されます。

* 協力会員については『子どもが好きだから』、『地域の子育て支援やボランティアがしたい』、『自分でも大変だったので子育ての世代を応援したい』と入会されます。

本年7月末会員の内訳：利用会員707人 協力会員214人 両方会員 85人

2.活動件数の推移



* 援助活動は月に200件から300件、多い時は400件近くになります。

* 地域別では四中学区が一番多く、二中・一中・千波中学区と続きます。

* 援助の多くは開放学級や保育園・幼稚園へのお迎え、その後のお預かりが多くなっています。土日の長時間のお預かりや、病後児のお預かりなども援助しています。

3.退会会員の推移

退会会員の推移

18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
21	45	25	218	26

* 退会会員の多くは、転勤による退会です。お子さんが12歳を過ぎたため退会する方もいますが、利用会員から協力会員に変更する会員もいます。21年度はアンケートにより、継続・退会等の整理を行ったため、増加したものです。

感謝

開設から7年を経て、会員数が1000人を超えました。皆さまのご理解とご協力の賜と感謝しております。今後は利用しやすい事業内容に努め、一人でも多くの協力会員に援助協力していただき活動件数の増加につなげたいと思います。また、会員講習会の充実を図ります。

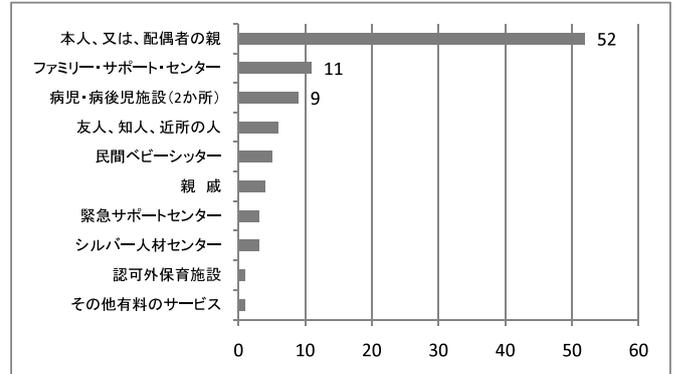
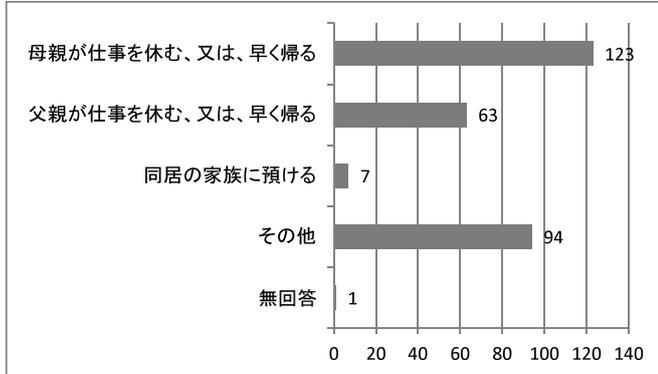


病児・病後児等預かりのアンケート



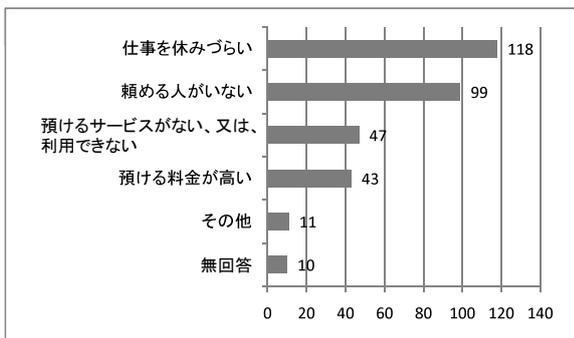
厚生労働省より「病児・病後児の預かり等に関するニーズ把握調査」（アンケート）の依頼がありました。利用会員・両方会員639人にご協力をお願いし、155人の方より回答をいただきました。
（有効回答率25.0%）

Q1. 急な残業やお子さんが急な病気の時はどう対応していますか。（複数回答）



- ・ 母親が父親の親にみてもらえる人は52人（57.1%）である。それ以外は制度等を利用している。
- ・ 民間のサービスは料金が大きく、何のために働くのが分からない。また、休みづらい。休んだことで結局仕事を辞めざるを得なくなった人も21人（13.5%）いた。
- ・ 制度を利用しない理由として、受け入れ施設や定員も少ない27人。また、手続きに時間がかかる10人。
- ・ 子どもに「病気にならないで」という子育て状況が見える。

Q2. 急な残業やお子さんが急な病気の時困ったことはありませんでしたか。（複数回答）



会員の声（子育ての現状）

- ・ 仕事を始めたいけれど、保育所からの急なお迎えの電話の時どうしたらいいのかわからない。
- ・ 核家族で緊急時に対応できる場所がない。
- ・ 休んでばかりでは仕事を続けられない。

ファミサポへのご意見から

Q 打ち合わせなど手続きが大変で利用したことがありません。手続きを簡素化できないでしょうか？

A：援助活動はお子さんの命をお預かりする活動です。入会登録をした会員同士が事前打ち合わせで顔をあわせ、アドバイザーとともに援助の内容を確認しています。援助の始めには必ず事前打ち合わせをしていますので、ご理解をお願いします。

Q 近くに協力会員さんがいないと聞き利用しないまま3年が過ぎました。

A：協力会員については広報活動を通じて登録していただくよう努めてます。援助が必要なときはセンターにご相談ください。

Q 料金が安いのではないのでしょうか？

A：21年6月、全会員に利用料金（報酬）についてのアンケートをとり、22年6月より1時間700円に引き下げました。

多数の声を皆さまからいただき、ありがとうございました。

多くの方から病児・病後児等の預かり、延長保育や休日保育の要望をいただきました。皆さまの声は水戸市子ども課にお届けし、今後とも皆さまとの信頼関係を築きながら、子育て事業の充実に努めてまいります。

東日本大震災は私たちに多くのことを投げかけ、日々の生活を考えることになりました。預かる協力会員においても活動中の不安を抱え、子供の不安もはかりしれないものがありました。

今回は、茨城県福祉相談センター判定課長の高橋活夫さんをお迎えし、『震災時の子どもの心のケア』について講習会を開催しました。

1. 震災後の子どもたちの反応は？

幼児期

赤ちゃん返り・大人にまとわりつく・ぐずったり、泣きわめく・夜一人になるのを怖がる・※記念日反応が起きる・体験したことを繰り返す（家具を揺らして地震だ～と言う）

学童期

無口になる・親の反応に敏感になる（親を苦しめたくない）・自傷行為や激しい感情に自分自身が怖くなる（他に幼児期と同じ反応も見られる）



高橋さん

※記念日反応とは、衝撃的な出来事の1年後やそれに関する報道などに反応して起きる症状

2. 子どもたちに必要なケア（3つの基本的な対応）

1. 耳を傾ける 子どもの言葉や行動に耳を傾ける。

2. まもる

- ・不安感や不快感を引き起こす災害映像を制限する。
- ・可能な限り「正常」な日常生活をする。

3. つなげる

- ・援助してくれる人を探す。
- ・子どもに小さな目標を与える。
- ・災害はまれにしか起こらないこと、過去に安全だったこと、そして今も安全であることを確認する。

援助のためのキーワード



大人のセルフケアも必要

信頼できるパートナーを持ち、自分の限界を知る。そして、地域のネットワークに参加して情報を共有し、孤立しないようにする。協力会員は信頼できるパートナー。

3. 具体的な対応

- ・夜の睡眠環境を整え、生活のリズムは崩さない。・子どもの赤ちゃん返りを馬鹿にしない。
- ・「もう大丈夫」「守ってあげるからね」「心配なことがあったら何でも話してね」など安全性を強調。
- ・「悲しいときは泣いていいよ」と保障し、子どもの方から震災体験を話してきたときには、黙って傾聴。口をはさんだり、遮ったりしない。
- ・「がんばれ」「元気にならないとみんな悲しむよ」など過剰の励ましをしない。「震災さえなければ」と現実を否定、歪曲するような声かけは慎む。
- ・津波ごっこなど自発的な行為はやめさせるのではなく「怖かったね」と気持ちを伝えながら見守る。

まとめ 活動中、万が一災害に遭ってしまった時は、子どもの安全を確保し保護者の迎えまで責任を持ってお預かりしてください。日頃の援助活動と同じです。会員さん同士の信頼関係を十分に築いてください。

震災の事前アンケートより

190人の方からご回答をいただきました。ありがとうございました。

1. 震災後のお子さんの様子

変化あり	103
変化なし	37
該当なし	2
無回答	48
計	190

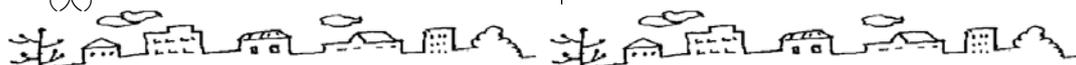
(人)

変化ありの主な内訳

- ☆余震に怯える…………… 55人
- ☆赤ちゃん返り・一人で寝られない・離れられないなど
- 今まで見られなかった行動が出た…………… 17人
- ☆地震ごっこをする… 6人

2. 震災を通じて感じたこと（多かった意見より）

- ☆ガソリン・備蓄用品の必要性、耐震の必要性を感じた。…………… 50人
- ☆家族や地域の絆・水や電気などがある普通の暮らしのありがたさを感じた。…………… 47人
- ☆子どもが一人にいるときにどうしたらいいのか、家族の連絡のとり方などを話し合った。……15人



会員の声

<初めての活動>

協力会員に登録して初めて送迎の依頼がありました。最初、緊張しましたがとても気を使ってくれるお子さんだったので助かりました。少し歩くのが早すぎたかなと反省しています。今の小学校は、授業以外の活動がある時は親が迎えにいかねばならないと聞いてびっくりしました。共働きの多い世の中、今の子育てはとても大変だなあと思いました。
(協力会員A.Kさん)

<援助活動を通して>

我が家の娘は年長。園最後の夏休みは毎日がとても愛しく、それと同時にふともたげてくる不安が！「来年からどうしよう？」恐る恐るセンターに電話を入れました。アドバイザーさんの対応に安心し気持ちが落ち着きました。夏休み最後の日、以前協力会員だった方で他県に引っ越しされたNさんとの楽しい時間。別れる時いつも「出会えてよかったね」です。
(利用会員M.Kさん)

<7/8の講習会に参加して>

今日はとてもよいお話を伺えて参加してよかったです。本当にありがとうございました。娘一家は仙台で被災しました。孫の心のケアのために、早速資料を送ろうと思います。
(協力会員M.Sさん)

<7/8の講習会に参加して>

震災当日、援助活動は無かったと聞きました。私がその時活動していたら、と考えました。「お預かりしているお子さんの安全を第一に考え、その時できることをする。利用会員さんとの日頃の信頼関係が重要になってきます。」本当にその通りだと思います。日頃から利用会員さんと信頼関係を築いていこうと思います。
(協力会員E.Tさん)



お知らせ

講習会「放射線と健康影響について」
日 時 9月30日(金) 10時~12時
会 場 内原中央公民館 1階講堂

講習会を開催します。
皆さんのお越しを
お待ちしております！

確認

災害時の安全について、事前打ち合わせで次のことを確認しています。

- ①緊急時の会員同士の連絡のとり方やセンターと会員の連絡のとり方について確認します。
- ②安全チェックリストで災害時の避難方法を確認します。
センターでは今後の災害時の対応について、活動中の心構えや会員同士の確認など、危機管理について充分に考えてまいります。

お願い

こんな時センターにご連絡下さい。

- ①お子さんが、保育園・幼稚園・小学校へ進まれたとき。
- ②水戸市内での住所の変更。
- ③新しい家族が誕生したとき。
- ④転勤などで転居される方、退会手続きをいたします。
- ⑤継続で援助を依頼している利用会員は毎月の援助内容をお知らせ下さい。



つぶやき

(せ) 足掛け8年。子どもたちの笑顔と保護者の若さ、協力会員さんの元気をいただきながら、走ってきました。会員の利用率、稼働率。病児病後児の援助など課題も膨らんできました。一人ひとりの会員さんと向き合いながら、楽しく事業を進めたいと思っています。

(ま) 子どもたちもそれぞれに成長していると思いつつも、「心配すること」は親の仕事なのでしょう。行きつ戻りつの子育てです。アドバイザーとしては2年目を迎えました。協力会員さんが活動を支えてくださっていることを実感する毎日です。会員さんの笑顔を思いうかべながらこれからも一步一步進みたいと思っています。よろしく願いいたします。



小藤公美華ちゃんより
すてきなお便りを
いただきました

